

第32回世界遺産委員会結果報告

「平泉」登録延期が決定

第32回世界遺産委員会が7月2日から10日まで、カナダ・ケベック市で開催され、世界文化遺産への登録を目指していた、本市の資産を含む「平泉—浄土思想を基調とする文化的景観」の審議が行われました。しかし5月のイコモス勧告どおり「登録延期」の審議結果となり、残念ながら世界遺産の仲間入りを果たすことはできませんでした。



写真上／「平泉」の審査も行われた世界遺産委員会会場（カナダ・ケベック市）

写真下／審議後の日本政府代表団による記者会見の様子（左から3番目が審議委員への「平泉」の価値説明に尽力した近藤大使。右端は岩井副市長）

浄土、こめられた想いへ。



市はこれまで、登録に向けて、国や県、関係市町、そして市民の皆さんと共に、さまざまな取り組みを進めてきました。これまでもお知らせしてきたとおり、5月の勧告後から「逆転登録」へ向けて、県知事や関係市町長で世界遺産委員国の大使館を訪問し説明を尽くしました。また、今回の世界遺産委員会に岩井憲男副市長と担当職員1人を現地へ派遣し、近藤誠一ユネスコ日本政府代表部特命全権大使を中

心とする日本政府代表団の一員として、審議委員の理解を得るための資料作成などを行いました。審議委員への事前説明では「平泉」の素晴らしさを理解する委員国もあり、審議が終わるまで登録の可否は予想がつかない状況でした。しかし、7月7日午前9時40分（日本時間）、現地で審議の行方を見守っていた岩井副市長から、相原正明市長に電話で第一



報が入り、「登録延期」の結果であったことが報告されました。審議では、各国の委員から好意的な発言が相次ぎ議論の流れは良かったものの、最終的に全会一致とならず、イコモス勧告どおりの結果となりました。

今回は残念な結果となりましたが、この結果は決して「平泉」の価値を否定するものではありません。委員国から「登録すべき」という熱心な発言もありました。諸外国では登録延期の決議後、再提出して登録になった例が数多くあります。このことから市は、国・県と協議しながら早期の登録実現を目指し再出発をします。本年度の関連事業も予定通り進めていきます。

市民の皆さんには、これまで各方面でのご協力に感謝するとともに、引き続き、登録へ向けて応援いただきますようお願いいたします。

■問い合わせ 本庁政策企画課
世界遺産登録推進室（前沢総合支所内線312）